

知的財産事例

株式会社イーアールアイ

地域貢献と成長のため、知財を経営戦略に 完全受託依存からの脱却に向け、独自のスマホ連動システムを開発

事業内容

2003年設立
組込み機器の開発・設計

知的財産権と内容

特許第6917042号	位置検出システムおよび移動局
商標第5525736号	BLUETUS \ ブルータス
商標第6169050号	InQross

他 特許権11件、商標権14件

(2024年7月現在)



技術部グループマネージャー
三浦 淳さん

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

大手電機メーカーから独立し 現在は自社製品も開発

当社は、現アルプスアルパイン社に勤めていたメンバーがスピンアウトする形で2003年に創業。元々は受託開発を中心に行っていたが、リーマンショックの影響で取引先が経営難に陥り、当社の業績も苦しくなった際、創業者である水野節郎氏が「お客様に依存する形では、いずれ立ち行かなくなる」と自社製品の開発に乗り出した。そこで生まれたのが、ビーコン発信機『BLUETUS（ブルータス）』だ。発表当初から業界でも好意的な反響を受け、先行商品として成功を収めた。また、自社製品の開発には大学との共同研究にも積極的に取り組み、特許や商標などの知財も数多く取得している。地元岩手に貢献する意味でも、さらに社名を広めたいと広報活動にも力を入れているという。

被災した岩手を応援すべく 先進的なビーコン発信機を開発

当社が開発した代表的な特許製品である『BLUETUS』は、技術部の三浦グループマネージャーが開発の先陣を切り、2012年にリリースされた。三浦マネージャーは、普及が始まったばかりのスマートフォンに目を付け「将来これと連携する機器の需要が高まるはずだ」と開発に着手した。また、東日本大震災で被災した岩手を少しでも元気づけたいという思いもあったそうだ。BLUETUSは、無線通信「Bluetooth」を用いたビーコン

発信機の先駆けといえる製品であり、屋内位置情報やデジタルスタンプラリー、クーポンの発行などに活用されている。また、事業拡大を想定し、過去には国内のみならずアメリカにもPCT出願を行った。本製品は電子機器の分野で独自性が高かったため、商標も取得。Bluetooth（ブルートゥース）からインスピレーションを得てBLUETUSとネーミングされた。商標取得の際には英名のロゴの下にカタカナを加えることにより、登録査定を受けやすくなるよう工夫したという。

知財の取得はプロモーションにも役立っている

BLUETUSの流れを受けて「今度はそのビーコン技術を使って何かできないか」と考え、岩手大学の電波やアンテナを専門とする教授と、岩手県立大学のデータ分析を専門とする教授、それぞれと異なる目線で屋内位置測位についての共同研究を行った。屋内ではGPSの電波が届かない為、位置ビーコンを利用する技術に期待が高まったという。そのような取り組みの中で開発されたのが『InQross（インクロス）』である。

InQrossは作業者の動きや状態を簡単に“見える化”できる分析ツールで、生産性向上につながるデータ収集が可能であり、主に企業の工場等で活用されている。こちらの特許と商標を取得しているが、BLUETUS・InQrossの両製品とも“特許出願中”や“取得済み”とアピールできるようになったことで製品への自信が強

まり、販売効果にも繋がったと感じている。最終的には知財の権利を活かしたライセンスビジネスに成長させたい、との展望もあるようだ。

知財取得における苦悩



しかし、InQrossの特許取得にあたっては、審査官から「元々あるものに対し、技術要件を変えただけではないか」と指摘され、拒絶査定を受けそうになった経験もある。その際、弁理士を通じてアイデアの独自性や、省電力や小型化に貢献する効果の高さを伝えた。その結果、審査官に理解してもらうことができ、無事取得に至ったという。

また、社内でも知財の大切さを共有したいと考えているが、社内全体の知財リテラシー向上に向けた働きかけは追いついていない部分もある。そこで現在は、社員が月15時間までは自由に研究や開発を行える時間を設けているほか、研究開発に関する資金を支援するな

ど、社員の開発意欲を高める福利厚生制度を充実させる工夫を行っている。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

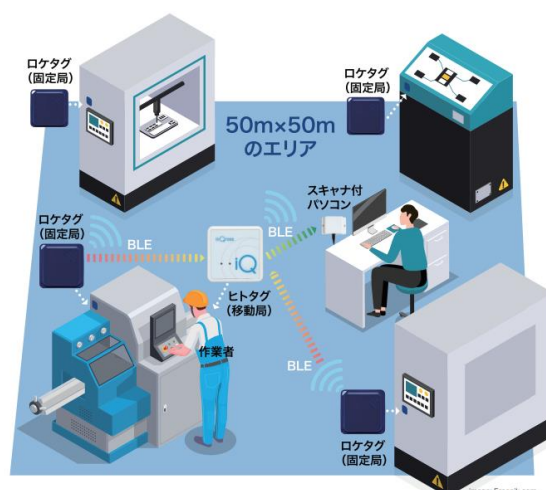


「我々にとって、知財は自分たちの力を表現する指標になった」と三浦マネージャーは話す。「受託開発をメインにしている会社は多いと思うが、自社製品を開発した経験は、受託開発にも良い影響を与えたと感じる。受託開発を続ける中で、こちらからお客様に様々な提案をすることも増えた。お客様の困り事から新たなアイデアの創造に繋がり、その発想が特許出願や自社製品の開発に繋がることもある」と。

「自社製品開発を通じて、まずは自社の強みを形にしてみる大切だと思う。そうすれば、自社製品と受託開発がスパイラルに成長していく企業になれるのではないかと併せて語った。



InQrossで利用される小型無線機「ロケタグ」と「ヒトタグ・モノタグ」
BLUETUSの技術も活かされた、屋内での動作をえる化する装置だ



InQross（インクロス）はクラウド不要。ライト版は50m×50mの広範囲に対応できる



知的財産活用のポイント

どの仕事にも誠実に向き合い アイデアの可能性を探る

創業当初は大企業出身のメンバーが主体となっていることもあり、知的財産権に対する意識を持つ人が多かった、と三浦マネージャーは話す。しかし、人材の流動が進み、知財に意識を持つ人材が減少する中、受託開発依存からの脱却に向けて知財

を事業戦略として検討したのは初めての経験だったため、BLUETUSの開発を機にINPIT（知財総合支援窓口）に相談したそうだ。開発技術の事業化に向けた柔軟な姿勢と、受託開発に誠実に向き合い続けた経験が、知財取得や活用にも大いに活きている。今後はイノベーション人材の育成にも力を入れ、社員たちのアイデアの中でひとつでも知財に繋がるものがあれば、とより一層可能性を広げていく方針だという。

COMPANY DATA

取材：2024年7月

企業名：株式会社イーアールアイ 所在地：岩手県盛岡市上堂3-8-44 電話番号：019-648-8566

URL：<https://www.erii.co.jp/> 創業：2003年 資本金：5524万円 従業員：48名

